

1. 無薬局地域における多職種連携による服薬支援・健康サポート事業 ～長野県薬剤師会の取り組みについて～

岩下 誠、高田弘子、日野寛明（一般社団法人長野県薬剤師会）

キーワード：多職種連携、在宅医療、地域薬剤師会

要旨：長野県薬剤師会では、厚生労働省から長野県への委託事業である「患者のための薬局ビジョン推進事業」により、平成28年度より「無薬局地域における多職種連携による服薬支援・健康サポート事業」を行ってきた。平成28年度にはモデル事業として南佐久郡南相木村で、平成29年度には長野県内の無薬局地域より公募により8地域で実施し、地域の薬剤師・薬局と医療機関等多職種との連携を強化し、地域で適正な薬物療法並びに疾病予防・健康増進などの健康サポートを受けられる仕組みを検討した。平成29年度は、8地域で計22回の相談会（お薬健康相談・ミニ講演会）を開催し、延べ153名の方が相談を、220名の方がミニ講演会を聴講した。日頃、薬剤師と接する機会が少ない無薬局地域で、薬に関する相談ニーズが多く存在することが明確となった。また、他職種アンケートの結果から、薬剤師との連携について98%の方が有用・やや有用と評価し、本事業は他職種と顔の見える関係構築の一助となったことが示された。

A. 目的

現在、国が目指している2025年の地域包括ケアシステムの構築に向けて、質の高い在宅医療の仕組み作りが求められている。薬剤師は薬に関わる医療職として、地域においてその職能を発揮することが必要である。しかし、本県は中山間地域が点在し、現在、77市町村のうち14村が無薬局地域となっており、平成の大合併以前の旧市町村では更に18村が無薬局地域であったことから、必ずしも生活圏内に薬局が存在するとは限らない。こうしたことから、中山間地域等においても、高齢者が住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らし続けることができるよう、中山間地域等における適切な薬物療法並びに疾病予防・健康増進などの健康サポートを受けられる仕組みづくりについて、他職種と連携しながら、薬剤師が定期的に当該地域と関わりを持つ仕組みを検討した。

B. 方法

1. 実施対象 長野県内の無薬局地域（8地域）*公募
2. 事業実施期間 平成29年10月～平成30年2月
3. 事業実施内容

(1) お薬健康相談

地域住民、地域で活動する他職種からのお薬・健康に関する相談応需

(2) ミニ講演会 ※下記テーマから選択

- ①薬の正しい使い方 ②高血圧と薬 ③認知症と薬
- ④糖尿病と薬 ⑤骨粗鬆症と薬 ⑥その他

4. 事業実施手順

- (1) 県担当課より該当市町村担当課・地域包括支援センター等に事業概要について説明

- (2) 地域薬剤師会より該当市町村・地域包括支援センター等へ事業内容について説明

- (3) 近隣地域の薬局へ協力援助要請

[お薬健康相談・ミニ講演会]

- ① 地域包括支援センター等と連携し、お薬健康相談ブース・ミニ講演会の開催準備・広報を実施
- ② 地域住民、地域で活動する他職種からのお薬・健康に関する相談応需、ミニ講演会の開催

- ③ 相談者（地域住民、地域で活動する他職種）による本事業の評価

- ④ 報告書の解析、評価

- ⑤ 事業報告書のとりまとめ（次年度以降の課題検討含む）及び情報発信

[他職種との同行訪問]

- ① 調査票等事業に必要な資材を他職種・薬局に配布
- ② 他職種による薬剤師の在宅訪問必要患者の紹介
- ③ 主治医の同意後、紹介された患者宅に薬剤師が同行訪問
- ④ 薬剤師の訪問によって得られた患者状況を患者に関わる他職種へ情報提供
- ⑤ 薬剤師が提供した情報をもとに、多職種が連携して患者の支援を実施
- ⑥ 薬剤師・他職種双方から報告書を提出し情報共有
- ⑦ 報告書の解析、評価
- ⑧ 事業報告書のとりまとめ（次年度以降の課題検討含む）及び情報発信



C. 結果

8地域で計22回の相談会を開催し、一般住民参加者は延べ153名の方が相談を、220名の方がミニ講演会を聴講した。また、他職種参加者は延べ26名の方がお薬健康相談に、52名の方がミニ講演会に参加した。参加薬剤師は延べ38名であった。

<一般住民アンケート結果>

*参加者220名のうち195名より回答

Q1. 今回の薬剤師によるお薬健康相談はいかがでしたか？

とてもよかった	よかった	どちらともいえない	よくなかった	未回答
102 (52.3%)	75 (38.5%)	8 (4.1%)	1 (0.5%)	9 (4.6%)

Q2. 今回の薬剤師によるミニ講演会はいかがでしたか？

とてもよかった	よかった	どちらともいえない	よくなかった	未回答
92 (51.4%)	71 (39.7%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)	13 (7.3%)

Q3. 薬剤師が地域に来ることはいかがでしたか？

とてもよかった	よかった	どちらともいえない	よくなかった	未回答
110 (56.4%)	75 (38.5%)	3 (1.5%)	0 (0.0%)	7 (3.6%)

Q4. 今後も薬剤師の話が聞きたいですか？

聞きたい	聞きたくない	分からない	未回答
171 (87.7%)	3 (1.5%)	11 (5.6%)	10 (5.1%)

<他職種アンケート結果>

*参加者52名のうち50名より回答

Q1. 今回の薬剤師によるお薬健康相談はいかがでしたか？

有用であった	やや有用であった	あまり有用でなかった	有用でなかった	未回答
39 (78.0%)	10 (20.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

Q2. ミニ講演会テーマについて

有用であった	やや有用であった	あまり有用でなかった	有用でなかった	未回答
35 (70.0%)	12 (24.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (6.0%)

Q3. ミニ講演会資料について

有用であった	やや有用であった	あまり有用でなかった	有用でなかった	未回答
32 (64.0%)	14 (28.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (8.0%)

Q4. 今回の事業で薬剤師との連携をどう感じましたか？

有用であった	やや有用であった	あまり有用でなかった	有用でなかった	未回答
39 (78.0%)	10 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)

Q5. 今後も開催を希望しますか？

はい	いいえ	その他	未回答
44 (78.6%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	5 (10.0%)

<参加薬剤師アンケート結果>

*参加者38名のうち33名より回答

Q1. 相談を受けた項目（相談を受けた薬剤師数）

飲み方	飲み忘れ対応	副作用	相互作用	残薬	健康	介護
16	12	14	19	8	12	2
健食・サプリ		病気	その他			
9		15	7			

<他職種同行訪問結果>*2地域で実施

事例1

・医師と同行訪問 メマリーの用量について考察し、用量を定める。

・対象患者 80歳以上、女性、高齢者世帯

事例2

・包括支援スタッフ(認知症地域支援推進員)と同行訪問 複数科(3科)受診中。脳血管性認知症の発症に伴い、定期処方剤の降圧剤・過活動膀胱薬をはじめ、各科の服薬コンプライアンスが低下。整理・一酸化・残薬調節によりコンプライアンス向上。

・対象患者 70歳代、女性、高齢者世帯

D. 考察

8地域で計22回の相談会を開催し、延べ153名の方が相談を、220名の方がミニ講演会を聴講した。日頃薬剤師と接する機会の少ない無薬局地域で、薬に関する相談に応じ、参加者の薬に対する意識づけに役立った。相談の内容は多岐に渡り、薬剤師に対する相談ニーズが多く存在することが明確となった。また、行政担当者や、他職種の方と顔みえる関係を作るきっかけとなり、お薬相談会の継続や定期的な開催、今後他の地区や保育園、施設などでも同様の取組を行ってほしいとの要請を受けた。同行訪問を2件実施し、薬剤師が在宅における薬剤管理についても支援してほしいという意見が寄せられた。今後世代にあった話題の提供や、良好なコミュニケーションの取り方を深めていくことが必要であり、無薬局地域における薬剤師の関わりを、今後どのように継続していくかが課題である。

E. まとめ

薬剤師に気軽に相談できる機会への高いニーズが明確となった。今後無薬局という枠を拡大し、さらに多くの地域住民に対して顔みえる薬剤師となり、その職能を発揮していきたい。

F. 利益相反 利益相反なし